

# 午 後

## 平成 2 8 年度登録販売者試験問題

### 茨城県

(平成 2 8 年 9 月 1 4 日 午後)

分 野		出題数	試験時間
1	主な医薬品とその作用 (40 問)	6 0 問	1 2 0 分
2	医薬品の適正使用と安全対策 (20 問)		

◎ 指示があるまで開いてはいけません。

◎ 注意事項

- この試験問題における「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」は、地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律（平成 2 7 年法律第 5 0 号）により改正した法律です。なお、問題文中では「医薬品医療機器等法」と表記します。
- 試験問題は問 6 1 から問 1 2 0 までの 6 0 問で、解答はすべて答案用紙に記入してください。1 つの解答欄に複数解答した場合、その箇所は無効とします。
- 不正行為を行った者や他の受験者の迷惑となる行為を行った者は、試験を無効とし、または合格を取り消すことがあります。
- 答案用紙は折り曲げたり、汚したりしないでください。また、誤って記入した場合は、消し跡が残らないように消しゴムで完全に消し、消しくずをよく払ってください。
- 退場する時は、答案用紙を裏返して机の上に置き、係員の指示に従ってください。
- この問題用紙は持ち帰ることができます。

#### 【 答案用紙への記入上の注意 】

- ①氏名を記入してください。
- ②マークは、HBより濃い鉛筆で、解答の数字の枠の中を塗りつぶしてください。
- ③マークを消す時は、消しゴムで完全に消し、消しくずはよく払ってください。

マークの仕方      良い例                      悪い例



薄い      短い      細い      はみでる

【問61】 次の表は、あるかぜ薬に含まれている成分の一覧である。

4 カプセル中	
イソプロピルアンチピリン	300 mg
アセトアミノフェン	450 mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩	7.5 mg
ジヒドロコデインリン酸塩	12 mg
d l -メチルエフェドリン塩酸塩	60 mg
カンゾウエキス末	118 mg
	(原生薬として 983 mg)
無水カフェイン	75 mg

このかぜ薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a イソプロピルアンチピリンは、咳を抑えることを目的として配合されている。
- b クロルフェニラミンマレイン酸塩は、抗ヒスタミン作用を有し、くしゃみや鼻汁を抑えることを目的として配合されている。
- c ジヒドロコデインリン酸塩は、発熱を鎮めることを目的として配合されている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	正	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問 6 2】 かぜ及びかぜ薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「かぜ」は単一の疾患ではなく、医学的にはかぜ症候群といい、主にウイルスが鼻や喉などに感染して起こる上気道の急性炎症の総称である。
- b インフルエンザ（流行性感冒）は、かぜと同様、ウイルスの呼吸器感染によるものであるが、感染力が強く、また重症化しやすいため、かぜとは区別して扱われる。
- c かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑えたり、体内から取り除くものではなく、咳で眠れなかったり、発熱で体力を消耗しそうなときなどに、それら諸症状の緩和を図ることを主な目的としている。
- d かぜであるからといって必ずしもかぜ薬（総合感冒薬）を選択するのが最適とは限らず、発熱、咳など症状がはっきりしている場合には、効果的に症状の緩和を図るため、解熱鎮痛薬、鎮咳去痰薬などを選択することが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

【問 6 3】 次の表は、ある解熱鎮痛薬に含まれている成分の一覧である。

2錠中	
イブプロフェン	144 mg
エテンザミド	84 mg
ブロモバレリル尿素	200 mg
無水カフェイン	50 mg
乾燥水酸化アルミニウムゲル	66.7 mg

この解熱鎮痛薬を販売するにあたって確認すべき事項に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 イブプロフェンは、消化管粘膜の防御機能を低下させるため、使用者に胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎又はクローン氏病の既往歴がないか確認する。
- 2 イブプロフェンは、出産予定日 12 週以内の妊婦については服用しないこととされているため、使用者が妊婦の場合、出産予定日について確認する。
- 3 エテンザミドは、水痘（水疱瘡）又はインフルエンザにかかっている 15 歳未満の小児に対しては使用を避ける必要があるため、使用者の症状及び年齢を確認する。
- 4 ブロモバレリル尿素は胎児に障害を引き起こす可能性があるため、使用者が妊娠していないか確認する。
- 5 乾燥水酸化アルミニウムゲルが配合されており、肝臓病の診断を受けた人ではアルミニウムの排泄が遅れたり、体内に貯留しやすくなるため、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談がなされているかどうか確認する。

【問64】 ヒスタミン及び抗ヒスタミン成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 生体内情報伝達物質であるヒスタミンは、脳の下部にある睡眠・覚醒<sup>せい</sup>に関する部位で神経細胞の刺激を介して、覚醒<sup>せい</sup>の維持や調節を行う働きを担っている。
- b 小児及び若年者では、抗ヒスタミン成分により眠気とは反対の神経過敏や中枢興奮などが現れることがある。
- c 抗ヒスタミン成分を主薬とする一般用医薬品の催眠鎮静薬は、睡眠改善薬として慢性的に不眠症状がある人を対象としており、一時的な睡眠障害（寝つきが悪い、眠りが浅い）の緩和には用いられない。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	誤	正	正
3	正	正	誤
4	誤	誤	正
5	正	正	正

【問65】 アリルイソプロピルアセチル尿素に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 脳の興奮を促し、痛覚を鈍くする作用がある。
- b 反復して摂取すると、依存を生じることが知られている。
- c 少量でも眠気を催しやすい。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	誤	正	正
3	正	正	誤
4	正	誤	正
5	正	正	正

【問66】 眠気を促す薬に配合される生薬成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a カノコソウ、チョウトウコウ等の生薬成分が複数配合されている製品があるが、これら生薬成分のみからなる製品は、通常、長期連用する必要がある場合に用いられる。
- b サンソウニンやチャボトケイソウが配合された医薬品は、それら成分又はセントジョーンズワートを含む食品を併せて摂取すると、医薬品の薬効に影響を及ぼしたり、副作用のリスクが高まったりすることがある。
- c カノコソウを含む製品は、医薬品的な<sup>ぼう</sup>効能効果が標榜又は暗示されていなければ食品として流通可能である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

【問67】 眠気防止薬におけるカフェインの摂取量に関する次の記述について、( )の中に入れるべき数字の正しい組み合わせはどれか。

眠気防止薬におけるカフェインの1回摂取量はカフェインとして( a ) mg、1日摂取量は( b ) mgが上限とされている。

	a	b
1	20	50
2	30	100
3	60	200
4	100	250
5	200	500

【問68】 鎮<sup>うん</sup>暈薬(乗物酔い防止薬)に配合される成分に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ジフェンヒドラミンテオクル酸塩は、中耳にある前庭と脳を結ぶ神経(前庭神経)の調節作用のほか、中耳への血流を改善する作用を示す。
- b ジメンヒドリナートは、ジフェニドール塩酸塩の一般名の抗ヒスタミン成分である。
- c メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが遅く持続時間が長い。
- d 乗物酔いの発現には不安や緊張などの心理的な要因による影響も大きく、それらを和らげることを目的として、ア Rilイソプロピルアセチル尿素が配合されている場合がある。

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

【問69】 咳<sup>せき</sup>や痰<sup>たん</sup>が生じる仕組み及び鎮咳去痰薬<sup>がい たん</sup>に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 咳<sup>せき</sup>は、気管や気管支に何らかの異変が起こったときに、その刺激が中枢神経系に伝わり、脊髄にある呼吸中枢の働きによって引き起こされる反応である。
- b 気道粘膜に炎症を生じたときには咳<sup>せき</sup>が誘発され、また、炎症に伴って喘息<sup>ぜん</sup>を生じることもある。
- c 鎮咳去痰薬<sup>がい たん</sup>は、咳<sup>せき</sup>を鎮める、痰<sup>たん</sup>の切れを良くすることを目的とするが、喘息<sup>ぜん</sup>症状を和らげる効果をもつものはない。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	正	誤	誤
3	正	誤	正
4	正	正	誤
5	誤	正	誤

【問70】 鎮咳去痰薬<sup>がい たん</sup>に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 気管支拡張成分として配合されるジプロフィリンは、自律神経を介して気管支の平滑筋を弛緩させ、気管支を拡張させる。
- b 生薬成分として配合されるナンテンジツは、知覚神経・末梢運動神経に作用して咳<sup>せき</sup>止めに効果があるとされる。
- c 漢方処方製剤である五虎湯<sup>ごことう</sup>はマオウを含むため、心臓病の診断を受けた人では使用により症状を悪化させるおそれがある。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	誤	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	正

【問 7 1】 口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）は、炎症を生じた粘膜組織の修復を促す作用を期待して配合される。
- b ヨウ素系殺菌消毒成分を有効成分として含む場合、橋本病の診断を受けた人では、その治療に悪影響（治療薬の効果減弱など）を生じることはない。
- c 主として喉の痛み等を鎮めることを目的とし、咳や痰に対する効果を標榜しない漢方処方製剤として、桔梗湯、白虎加人参湯、響声破笛丸があるが、これらはいずれも構成生薬としてダイオウを含む。
- d ヨウ素は、レモン汁やお茶などに含まれるビタミンC等の成分と反応すると脱色を生じて殺菌作用が失われるため、ヨウ素系殺菌消毒成分が配合された含嗽薬では、そうした食品を摂取した直後の使用は避けることが望ましい。

1 (a、c)      2 (a、d)      3 (b、d)      4 (c、d)

【問 7 2】 強心薬に含まれる生薬成分と、その基原の関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

生薬成分		基原
a センソ	—	シナヒキガエル等の毒腺分泌物
b ジャコウ	—	雄ジャコウジカの麝香腺分泌物
c ゴオウ	—	マンシュウアカジカの幼角
d ロクジョウ	—	ウシの胆嚢中に生じた結石

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、c)      4 (b、d)

【問 7 3】 高コレステロール改善薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 大豆油不<sup>けん</sup>飽化物（ソイステロール）には、腸管におけるコレステロールの吸収を高める働きがあるとされる。
- b リノール酸は、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされ、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。
- c パンテチンは、高密度リポタンパク質（HDL）等の異化<sup>まつ</sup>排泄を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、低密度リポタンパク質（LDL）産生を高める作用があるとされる。
- d ビタミンEは、コレステロールから過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問 7 4】 貧血用薬（鉄製剤）に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 貧血用薬（鉄製剤）は、鉄欠乏性貧血に対して不足している鉄分を補充し、造血機能の回復を図る医薬品である。
- b 鉄製剤を服用すると、便が黒くなることがある。
- c 鉄分の吸収は空腹時のほうが高いとされているが、消化器系への副作用を軽減するには、食後に服用することが望ましい。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤



【問 7 5】 循環器用薬に含まれるユビデカレノンに関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 別名コエンザイムQ10とも呼ばれる。
- b 心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を抑えることによって、血液循環の改善効果を示すとされる。
- c 副作用として、胃部不快感、食欲減退、吐きけ、下痢、発疹・痒みしん かゆが現れることがある。
- d 小児において心疾患による動悸き、息切れ、むくみの症状があるような場合には、医師の診療を受けることが優先されるべきであるが、15歳未満の小児向けの製品も存在する。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

【問 7 6】 女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる次の漢方処方製剤のうち、構成生薬としてカンゾウを含まないものはどれか。

- 1 温経湯うんけいとう
- 2 加味逍遙散かみしょうようさん
- 3 柴胡桂枝乾姜湯さいこけいしかんきょうとう
- 4 桂枝茯苓丸けいしふくりょうがん

【問 7 7】 アレルギー及び内服アレルギー用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アレルゲン（抗原）が皮膚や粘膜から体内に入り込むと、その物質を特異的に認識した免疫グロブリン（抗体）によって肥満細胞が刺激され、細胞間の刺激の伝達を担う生理活性物質であるヒスタミンやプロスタグランジン等の物質が遊離する。
- b ヒスタミンは、器官や組織の表面に分布する特定のタンパク質（受容体）と反応することで、血管収縮、血管透過性低下等の作用を示す。
- c アレルギー症状が現れる前から予防的に一般用医薬品のアレルギー用薬を使用することは適当であるが、薬剤師又は登録販売者の指導の下で行われる必要がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	誤

【問 7 8】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

比較的体力のあるものの鼻づまり、蓄膿症<sup>のう</sup>、慢性鼻炎に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱い人、発汗傾向の著しい人では、悪心、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

- 1 当帰芍薬散<sup>とうきしゃくやくさん</sup>
- 2 猪苓湯<sup>ちよれいとう</sup>
- 3 葛根湯加川芎辛夷<sup>かっこんとう かせんきゅうしんい</sup>
- 4 八味地黄丸<sup>はちみじおうがん</sup>

【問 7 9】 点鼻薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 点鼻薬は局所（鼻腔内<sup>くう</sup>）に適用されるものであり、全身的な影響を生じることはない。
- b ベンザルコニウム塩化物は陰性界面活性成分で、黄色ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌又はカンジダ等の真菌類に対して殺菌消毒作用を示すほか、結核菌やウイルスに対しても効果がある。
- c 一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬の対応範囲は、急性又はアレルギー性の鼻炎及びそれに伴う副鼻腔炎<sup>くわう</sup>の他、蓄膿症などの慢性のものも対象となる。

- |   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 誤 |

【問 8 0】 一般用検査薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用検査薬の検査に用いる検体は、尿、糞便、鼻汁、唾液、涙液など採取に際して侵襲のないものである。
- b 一般用検査薬の対象には、遺伝性疾患の診断に関係するものが含まれている。
- c 医療用検査薬と比べ、一般用検査薬は検査結果が明確であることから、販売を行う際に、購入者等に対し検査結果の判定について説明をする必要はない。
- d 検体中に対象物質が存在しているにもかかわらず、検出反応が起こらなかった場合を擬陽性<sup>ぎ</sup>という。

- |   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 誤 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 5 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |

【問 8 1】 胃の薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アルジオキサは、透析を受けている人では使用を避ける必要がある。
- b ピレンゼピン塩酸塩は、排尿困難の症状がある人では、症状の悪化を招くおそれがある。
- c テプレノン<sup>®</sup>は、まれに重篤な副作用として肝機能障害を生じさせることがある。
- d セトラキサート塩酸塩は、血栓を起こすおそれのある人では、生じた血栓を分解されにくくすることが考えられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

【問 8 2】 次の表は、ある止瀉薬<sup>しや</sup>に含まれている成分の一覧である。

12錠中	
日局木クレオソート <sup>もく</sup>	270 mg
日局ゲンノショウコ末 <sup>しや</sup>	300 mg
オウバク乾燥エキス	300 mg

この止瀉薬<sup>しや</sup>に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 日局木クレオソート<sup>もく</sup>は、過剰な腸管の運動を正常化し、あわせて水分や電解質の分泌を抑える止瀉作用がある。
- b 日局ゲンノショウコ末<sup>しや</sup>は、整腸作用を期待して配合されている。
- c オウバク乾燥エキスは、腸管内の異常発酵によって生じた有害な物質を吸着させる。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	正	正	誤

【問 8 3】 瀉下薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a センナは、流産・早産を誘発するおそれがある。
- b ダイオウは、吸収された成分の一部が乳汁中に移行し、乳児に下痢を生じさせるおそれがある。
- c 硫酸マグネシウムは、腎臓病の診断を受けた人では、高マグネシウム血症を生じさせるおそれがある。
- d 硫酸ナトリウムは、血液中の電解質のバランスが損なわれ、心臓の負担が増加し、心臓病を悪化させるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	正	正	正

【問 8 4】 胃腸鎮痛鎮痙薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アミノ安息香酸エチルは、緑内障の診断を受けた人では、症状の悪化を招くおそれがある。
- b ブチルスコポラミン臭化物は、メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあり、6歳未満の小児への使用は避ける必要がある。
- c オキセサゼインは、小児における安全性が確立されていない。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤
5	正	正	誤

【問 8 5】 浣腸薬及び浣腸薬に含まれる成分に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 グリセリンが配合された浣腸薬は、直腸の粘膜に損傷があり出血しているときに使用すると、腎不全を引き起こすおそれがある。
- 2 ビサコジルは、直腸内で徐々に分解され炭酸ガスの微細な気泡を発生する。
- 3 浣腸薬は、繰り返し使用することで直腸の感受性が高まり、効果が強くなる。
- 4 坐剤を挿入した後は、すぐに排便を試みる必要がある。

【問 8 6】 腸の薬に含まれる成分に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 トリメブチンマレイン酸塩は、牛乳に含まれるタンパク質から精製された成分であるため、牛乳にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。
- 2 次没食子酸ビスマスは、海外において長期連用した場合に精神神経症状が現れたとの報告があり、1週間以上継続して使用しないこととされている。
- 3 ロペラミド塩酸塩が配合された止瀉薬は、食あたりや水あたりによる下痢の症状に用いられる。
- 4 タンニン酸アルブミンは、胃及び腸の平滑筋に直接作用して、消化管の運動を調整する作用があるとされている。

【問 8 7】 漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 安中散は、体力中等度以下で腹部筋肉が弛緩する傾向にあり、胃痛又は腹痛があつて、ときに胸やけや、げっぷ、食欲不振、吐きけなどを伴うものの神経性胃炎、慢性胃炎、胃腸虚弱に適すとされる。
- b 六君子湯は、体力中等度以下で腹部膨満感のある人のしぶり腹、腹痛、下痢、便秘に適すとされる。
- c 桂枝加芍薬湯は、体力中等度以下で、胃腸が弱く、食欲がなく、みぞおちがつかえて疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの胃炎、胃腸虚弱、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐に適すとされる。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	誤	誤	正
3	誤	誤	誤
4	正	誤	誤

【問 8 8】 次の表は、ある痔の薬に含まれている成分の一覧である。

1 個 (2 g) 中	
ヒドロコルチゾン酢酸エステル	5 mg
塩酸テトラヒドロゾリン	1 mg
リドカイン	60 mg
1-メントール	10 mg
アラントイン	20 mg
トコフェロール酢酸エステル	60 mg
クロルヘキシジン塩酸塩	5 mg

この痔の薬に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ヒドロコルチゾン酢酸エステルは、痔による肛門部の炎症を和らげる。
- b 塩酸テトラヒドロゾリンは、止血効果を期待して配合されている。
- c リドカインは、痔疾患に伴う局所の感染を防止する。
- d クロルヘキシジン塩酸塩は、痔に伴う痛み・痒みを和らげる。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、c)      4 (b、d)      5 (c、d)

【問 8 9】 痔の薬に含まれる成分に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a イソプロピルメチルフェノールは、粘膜の保護を期待して配合されている。
- b カイカは、主に止血効果を期待して配合されている。
- c セイヨウトチノミは、主に抗炎症作用を期待して配合されている。
- d カルバゾクロムは、鬱血を改善する効果を期待して配合されている。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、c)      4 (b、d)      5 (c、d)

【問90】 次の表は、ある眼科用薬に含まれている成分の一覧である。

ビタミンB <sub>6</sub>	0.1 %
アラントイン	0.06 %
L-アスパラギン酸カリウム	1 %
クロルフェニラミンマレイン酸塩	0.01 %
ネオスチグミンメチル硫酸塩	0.003 %
ナファゾリン塩酸塩	0.003 %

この眼科用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ビタミンB<sub>6</sub>は、アミノ酸の代謝や神経伝達物質の合成に関与していることから、目の疲れ等の症状を改善する効果を期待して配合されている。
- b L-アスパラギン酸カリウムは、結膜を通過している血管を収縮させて目の充血を除去することを目的として配合されている。
- c ネオスチグミンメチル硫酸塩は、目の調節機能を改善する効果を目的として配合されている。
- d ナファゾリン塩酸塩は、新陳代謝を促し、目の疲れを改善する効果を期待して、配合されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	誤	正	誤

【問91】 点眼薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 点眼後、目頭を押さえると、薬液が鼻腔内へ流れ込むのを防ぐことができる。
- b ソフトコンタクトレンズを装着したままで防腐剤が配合された点眼薬を点眼すると、角膜に障害を引き起こすおそれがある。
- c 点眼薬の全身性の副作用として、皮膚に発疹、発赤、痒みが現れることがある。
- d 緑内障の症状は、一般用医薬品の点眼薬により、改善を期待できる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	正	誤

【問 9 2】 皮膚に用いる薬に含まれる成分に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ピロールニトリンは、患部を酸性にすることで、皮膚糸状菌の発育を抑える。
- 2 テルピナフィン塩酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げることにより、その増殖を抑える。
- 3 スルファジアジンは、皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示す。
- 4 硫酸フラジオマイシンは、細菌のDNA合成を阻害することにより抗菌作用を示す。

【問 9 3】 頭皮・毛根に作用する配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a カルプロニウム塩化物は、頭皮の血管を拡張、毛根への血行を促すことによる発毛効果を期待して配合されている。
- b エストラジオール安息香酸エステルは、女性ホルモンによる脱毛抑制効果を期待して配合されている。
- c チクセツニンジンは、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して配合されている。
- d カシュウは、血行促進、抗炎症作用を期待して配合されている。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、c)      4 (b、d)      5 (c、d)

【問 9 4】 次の表は、ある歯槽膿漏薬<sup>のう</sup>に含まれている成分の一覧である。

100 g 中	
トコフェロール酢酸エステル	2.0 g
ヒノキチオール	0.1 g
セチルピリジニウム塩化物水和物	0.05 g
グリチルリチン酸二カリウム	0.4 g
アラントイン	0.3 g

この歯槽膿漏薬<sup>のう</sup>に含まれる成分と、その主な配合目的に関する次の組み合わせのうち、正しいものはどれか。

成分	主な配合目的
1 ヒノキチオール	— 組織修復作用
2 セチルピリジニウム塩化物水和物	— 止血作用
3 グリチルリチン酸二カリウム	— 抗炎症作用
4 アラントイン	— 殺菌消毒作用



【問 9 5】 禁煙補助剤に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ニコチンは交感神経系を抑制させる作用を示し、アドレナリン作動成分が配合された医薬品との併用により、その作用を減弱させるおそれがある。
- b 咀嚼剤は、菓子のガムのように噛み、唾液を多く分泌させながら使用することで、吐きけや腹痛の副作用が現れにくくなる。
- c うつ病と診断されたことのある人は、禁煙時の離脱症状により、うつ症状を悪化させることがあるため、使用を避ける必要がある。
- d 咀嚼剤は、口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が低下するため、炭酸飲料を摂取した後しばらくは使用を避けることとされている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	誤	誤
5	正	誤	正	誤

【問 9 6】 滋養強壮保健薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ビタミンDの過剰症として、高カルシウム血症、異常石灰化が知られている。
- b 一般用医薬品におけるビタミンAの1日分量は10000国際単位が上限となっている。
- c ビタミンEは下垂体や副腎系に作用してホルモン分泌の調節に関与するとされており、ときに生理が早く来たり、経血量が多くなったりすることがある。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	正	正
3	誤	誤	誤
4	正	誤	正
5	誤	正	誤

【問97】 漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 防風通聖散<sup>ぼうふうつうしょうさん</sup>は、体力中等度以上で、赤ら顔でときにのぼせがあるもののにきび、顔面・頭部の湿疹・皮膚炎<sup>しん</sup>、赤鼻（酒さ）に適すとされるが、胃腸の弱い人では食欲不振、胃部不快感の副作用が現れやすい等、不向きとされる。
- b 防己黄耆湯<sup>ぼういおうぎとう</sup>は、体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節痛、むくみ、多汗症、肥満（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）に適すとされる。
- c 黄連解毒湯<sup>おうれんげどくとう</sup>は、体力中等度以上で、のぼせがみで顔色赤く、いらいらして落ち着かない傾向のあるものの鼻出血、不眠症、神経症、胃炎、二日酔い、血の道症、めまい、動悸<sup>き</sup>、更年期障害、湿疹<sup>しん</sup>・皮膚炎、皮膚のかゆみ、口内炎に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）では不向きとされる。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	誤
4	正	誤	正

【問98】 生薬成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a カッコンは、キンボウゲ科のハナトリカブト又はオクトリカブトの塊根を減毒加工して製したものを基原とする生薬であり、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を持つ。
- b ショウマは、マメ科のクズの周皮を除いた根を基原とする生薬で、解熱、鎮痙<sup>けい</sup>等の作用を期待して用いられる。
- c ブクリョウは、サルノコシカケ科のマツホドの菌核で、通例、外層をほとんど除いたものを基原とする生薬で、利尿、健胃、鎮静等の作用を期待して用いられる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	誤	正
3	正	誤	誤
4	正	正	誤
5	誤	誤	誤

【問 9 9】 消毒薬に含まれる成分に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a クレゾール石<sup>けん</sup>鹼液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して広い殺菌消毒作用を示す。
- b イソプロパノールは、脱脂による肌荒れを起こしやすく、皮膚へ繰り返して使用する場合には適さない。
- c 次亜塩素酸ナトリウムは、プラスチックやゴム製品を劣化させないが、金属を腐食させる。
- d ジクロロイソシアヌル酸ナトリウムは、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、c)      4 (b、d)      5 (c、d)

【問 1 0 0】 殺虫剤・忌避剤に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a フェノトリンは、アセチルコリンを分解する酵素と不可逆的に結合してその働きを阻害する。
- b ジクロルボスは、神経細胞に直接作用して神経伝達を阻害する。
- c ジフルベンズロンは、アセチルコリンを分解する酵素と可逆的に結合してその働きを阻害する。
- d プロポクスルは、脱皮時の新しい外殻の形成を阻害して、幼虫の正常な脱皮をできなくする。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	誤	誤	誤
5	正	正	誤	正

## 医薬品の適正使用と安全対策（20問）

【問101】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 添付文書の重要な内容が変更された場合には、改訂年月を記載するとともに改訂された箇所を明示することとされている。
- b 添付文書の販売名の上部には、「使用にあたって、必要に応じてこの説明文書を読むこと。また、必要な時に読めるよう大切に保存すること。」の文言が記載される。
- c 添付文書の内容は、医薬品の有効性・安全性等に係る新たな知見、使用に係る情報に基づき、3年に1回定期的に改訂がなされる。
- d 一般用医薬品を使用した人が医療機関を受診する際には、その添付文書を持参し、医師や薬剤師に見せて相談がなされることが重要である。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

【問102】 医薬品の適正な使用のために必要な情報に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 要指導医薬品の添付文書や製品表示に記載されている適正使用情報は、医師、薬剤師、登録販売者等の専門家だけが理解できるような表現で記載されている。
- b 医薬品は、効能・効果、用法・用量、起こり得る副作用等、その適正な使用のために必要な情報を伴って初めて医薬品としての機能を発揮するものである。
- c 医薬品には、それに添付する文書又はその容器若しくは包装に、「用法、用量その他使用及び取扱い上の必要な注意」の記載が義務づけられている。
- d 一般用医薬品の添付文書や製品表示において、薬効名及びリスク区分の記載は省略されることがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	誤

【問103】 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 使用上の注意は、「してはいけないこと」、「相談すること」及び「その他の注意」から構成され、適正使用のために重要な項目は後段に記載されている。
- b 「相談すること」の項に、「薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人」と記載がある医薬品では、他の医薬品でアレルギーの既往歴があるがその医薬品でアレルギーの既往歴がない人は、相談の対象とならない。
- c 重篤な副作用として、皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死融解症が掲げられている医薬品では、アレルギーの既往歴がある人は使用しないこととして記載されている。
- d 医療機関で治療を受けている人が、医療用医薬品と併用する場合、治療のために処方された医薬品の使用を自己判断で控えることは適当でないため、「相談すること」の項において、「医師（又は歯科医師）の治療を受けている人」等として記載されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	正	正	正	誤

【問104】 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小児に使用される医薬品の「してはいけないこと」の項には、「服用前後は飲酒しないこと」といった小児では通常当てはまらない内容は記載されていない。
- b 小児が使用した場合に特異的な有害作用のおそれがある成分を含有する医薬品では、通常、「次の人は使用（服用）しないこと」の項に「15歳未満の小児」、「6歳未満の小児」等として記載されている。
- c 異常なまぶしさを引き起こす成分が配合されている場合は、重大な事故につながるおそれがあるため、その症状の内容とともに「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」の旨が記載されている。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正
5	正	誤	正

【問105】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 抗ヒスタミン薬を服用した際の眠気のような薬理作用から発現が予測され、容認される軽微な症状が持続又は増強した場合には、使用を継続しつつ専門家に相談するよう記載されている。
- b 一般用検査薬では、検査結果が陰性であっても何らかの症状がある場合は、再検査するか又は医師に相談する旨等が記載されている。
- c 一般用医薬品の添加物として配合されている成分は、医薬品医療機器等法の定めではなく、製薬企業界の自主申し合わせに基づいて記載されている。
- d 一般用医薬品を使用した際に生じる軽微な症状のうち容認されるものについては、「次の症状が現れることがある」として記載されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

【問106】 一般用医薬品（一般用検査薬を除く。）の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「効能又は効果」には、一般の生活者が自ら判断できる症状、用途等が示されている。
- b 「用法及び用量」には、年齢区分、1回用量、1日の使用回数等について一般の生活者に分かりやすく、表形式で示されるなど工夫して記載されている。
- c 「消費者相談窓口」には、製造販売元の製薬企業において購入者等からの相談に応じるための窓口担当部門の名称、電話番号、受付時間等が記載されている。
- d 「保管及び取扱い上の注意」には、医薬品を旅行や勤め先等へ携行する場合、別の容器に移すことがあるため、「携行時には他の容器に入れ替えて保管すること」と記載されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	正

【問107】 医薬品の製品表示に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 専門家への相談勧奨に関する事項については、記載スペースが狭く小さい場合には、「使用が適さない場合があるので、使用前には必ず医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください」等と記載されている。
- b 1回服用量中0.01 mLのアルコールを含有する内服液剤（滋養強壯を目的とするもの）については、アルコールを含有する旨及びその分量が記載されている。
- c 使用期限の表示については、適切な保存条件の下で製造後2年を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品において法的な表示義務はない。
- d 表示された「使用期限」は、未開封状態で保管された場合に品質が保持される期限である。

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

【問108】 医薬品等に係る安全性情報に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 緊急安全性情報は、医療用医薬品や医家向け医療機器について情報提供するためのものであり、一般用医薬品に関係する情報が発出されることはない。
- b 緊急安全性情報は、A4サイズの青色地の印刷物で、ブルーレターとも呼ばれる。
- c 安全性速報は、医薬品、医療機器又は再生医療等製品について、一般的な使用上の注意の改訂情報よりも迅速な注意喚起が必要な場合、又は適正使用のための対応の注意喚起が必要な場合に作成される。
- d 医薬品の製造販売業者は、医薬品の有効性及び安全性に関する事項その他医薬品の適正な使用のために必要な情報を収集し、検討するとともに、薬局開設者、店舗販売業者、配置販売業者及びそこに従事する薬剤師や登録販売者に対して、提供するよう努めなければならない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

【問 1 0 9】 副作用情報等の収集に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 製造販売業者は、製造販売をし、又は承認を受けた医薬品について、その副作用等によるものと疑われる健康被害の発生を知ったときは、その旨を定められた期限までに都道府県知事に報告することが義務づけられている。
- b 薬局開設者、医療施設の開設者、医薬品の販売業者又は医師、歯科医師、薬剤師その他の医薬関係者は、製造販売業者が行う情報収集に協力するよう努めなければならない。
- c 登録販売者には医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に基づく副作用等の報告義務はない。
- d 血液製剤等の生物由来製品を製造販売する企業に対して、当該企業が製造販売する生物由来製品の安全性について評価し、その成果を定期的に国へ報告する制度が導入されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問 1 1 0】 医薬品等による健康被害が疑われる場合の報告又は副作用に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 無承認無許可医薬品又は健康食品によると疑われる健康被害については、(独)医薬品医療機器総合機構に連絡することとなっている。
- b 医薬品の副作用には、その医薬品の適応症状と見分けがつきにくい副作用の症状もあるので、注意が必要である。
- c 複数の専門家が医薬品の販売に携わっている場合であっても、その医薬品の副作用等によると疑われる健康被害の情報に直接接した専門家1名からの報告書が提出されれば十分である。
- d 薬局開設者は、保健衛生上の危害の発生又は拡大防止の観点から、報告の必要性を認めた場合においては、医薬品医療機器等法で定められた期限内に、報告書を(独)医薬品医療機器総合機構に送付することとされている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤



【問 1 1 1】 医薬品の副作用等に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、最新の医学・薬学の水準においても予見しえない副作用が発生することがある。
- b 医薬品は、副作用が起こり得ることが分かっているにもかかわらず、医療上の必要性から使用せざるをえない場合がある。
- c 医薬品が適正に使用されたか否かにかかわらず副作用による一定の健康被害が生じた場合に、被害者の迅速な救済を図ろうというのが、医薬品副作用被害救済制度である。
- d (独)医薬品医療機器総合機構は、公益財団法人友愛福祉財団（旧財団法人友愛福祉財団）からの委託を受けて、血液製剤によるH I V感染者・発症者に対する健康管理費用の支給等を行っている。

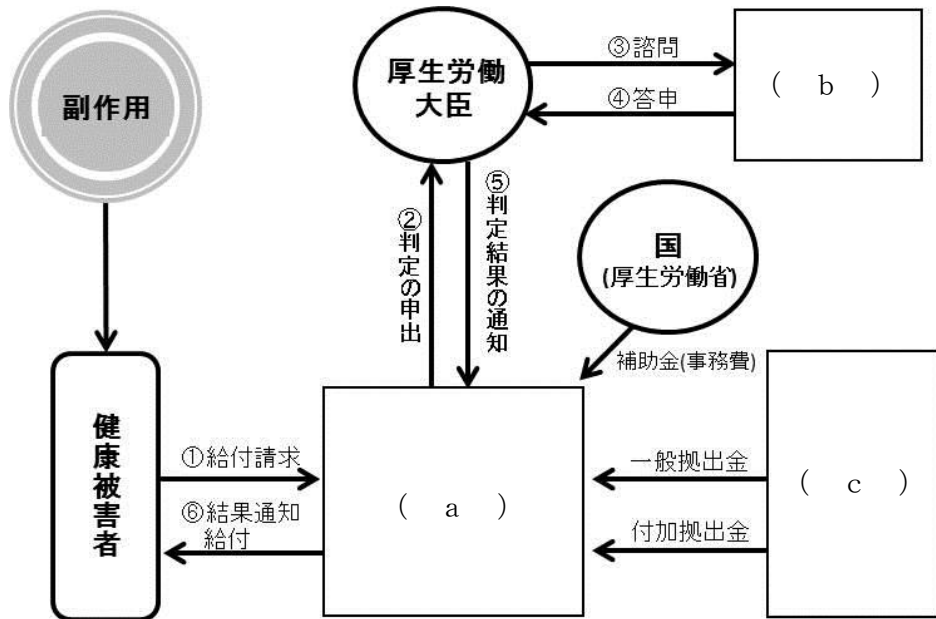
	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	正	正	正	正

【問 1 1 2】 医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 個人輸入により入手した医薬品の使用による健康被害は、救済給付の対象に含まれる。
- b 医療機関での治療を要せずに寛解した軽度の健康被害は、救済給付の対象に含まれる。
- c 一般用医薬品の殺虫剤及び殺鼠剤は、救済制度の対象とならない医薬品である。
- d 給付の種類のうち、医療費及び医療手当については請求期限が定められていない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	正	誤
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	正	誤	正	正

【問 1 1 3】 医薬品副作用被害救済制度に関する次の概略図について、( ) の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。ただし、「総合機構」とは、(独)医薬品医療機器総合機構 (PMDA) のことである。



- |   | a         | b          | c         |
|---|-----------|------------|-----------|
| 1 | 総合機構      | 日本製薬団体連合会  | 医薬品販売業者   |
| 2 | 日本製薬団体連合会 | 総合機構       | 医薬品販売業者   |
| 3 | 総合機構      | 薬事・食品衛生審議会 | 医薬品製造販売業者 |
| 4 | 日本製薬団体連合会 | 薬事・食品衛生審議会 | 医薬品販売業者   |
| 5 | 総合機構      | 日本製薬団体連合会  | 医薬品製造販売業者 |

【問 1 1 4】 一般用医薬品の安全対策に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a <sup>しょうさい ことう</sup>小柴胡湯とインターフェロン製剤の併用例による鬱血性心不全が報告されたことから、  
<sup>しょうさい ことう</sup>小柴胡湯についてインターフェロン製剤との併用を禁忌とする旨に使用上の注意が改訂された。
- b 解熱鎮痛成分としてアミノピリン、スルピリンが配合されたアンプル入りかぜ薬の使用による重篤な副作用が発生したことを踏まえ、厚生省（当時）は関係製薬企業に対し、アンプル入りかぜ薬製品の回収を要請した。
- c フェニレフリン塩酸塩が配合された一般用医薬品による脳出血等の副作用症例が複数報告されたため、厚生労働省は関係製薬企業等に対して、代替成分としてメチルエフェドリン塩酸塩への速やかな切替えを指示した。
- d 一般用かぜ薬の使用によると疑われる間質性肺炎の発生事例が報告されたことを受け、厚生労働省は一般用かぜ薬全般につき使用上の注意の改訂を指示した。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	誤	正

【問 1 1 5】 一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の項において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目欄に「授乳中の方は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること」と記載されている一般用医薬品と、その理由に関する次の組み合わせのうち、正しいものはどれか。

一般用医薬品	理由
1 テオフィリンが配合された鎮咳去痰薬	— 乳児に神経過敏を起こすことがあるため。
2 センノシドが配合された内服薬	— 乳児に昏睡を起こすことがあるため。
3 ロートエキスが配合された内服薬	— 乳児に貧血を起こすことがあるため。
4 イブプロフェンが配合された解熱鎮痛薬	— 乳児に頻脈を起こすことがあるため。

【問 1 1 6】 プソイドエフェドリン塩酸塩が配合されている鼻炎用内服薬の添付文書の「してはいけないこと」の項への記載に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 徐脈又は頻脈を引き起こし、心臓病の症状を悪化させるおそれがあるため、心臓病の診断を受けた人は服用しないよう記載されている。
- b 喘息発作を誘発するおそれがあるため、喘息を起こしたことがある人は服用しないよう記載されている。
- c 胃液の分泌が亢進し、胃潰瘍の症状を悪化させるおそれがあるため、胃潰瘍の診断を受けた人は服用しないよう記載されている。
- d 肝臓でグリコーゲンを分解して血糖値を上昇させる作用があり、糖尿病を悪化させるおそれがあるため、糖尿病の診断を受けた人は服用しないよう記載されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

【問 1 1 7】 次のうち、長期連用によりアルミニウム脳症及びアルミニウム骨症を生じるおそれがあるため、一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の項に、「長期連用しないこと」と記載されている成分はどれか。

- 1 セミアルカリプロテイナーゼ
- 2 アルジオキサ
- 3 次硝酸ビスマス
- 4 タンニン酸アルブミン

【問 1 1 8】 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、特定の症状がある人が服用しようとする場合に、専門家に相談するよう注意が求められている成分と、その症状に関する次の組み合わせのうち、正しいものはどれか。

	成分		症状
1	ロペラミド塩酸塩	—	けいれん
2	プロメライン	—	出血傾向
3	ピペラジンリン酸塩水和物	—	排尿困難
4	イソプロパミドヨウ化物	—	はげしい腹痛

【問 1 1 9】 次のうち、添付文書の「相談すること」の項において、「高齢者」と記載されている一般用医薬品として正しいものの組み合わせはどれか。

- a グリセリンが配合された浣腸薬<sup>かん</sup>
- b ビタミンA主薬製剤
- c 副腎皮質ホルモンが配合された鎮痒消炎薬<sup>よう</sup>
- d スコポラミン臭化水素酸塩が配合された鎮暈薬<sup>うん</sup>

1 (a、c)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (b、d)

【問 1 2 0】 一般用医薬品の添付文書の「相談すること」の項において、「次の診断を受けた人」の項目欄に「肝臓病」と記載される主な成分・薬効群と、その理由に関する次の組み合わせのうち、正しいものはどれか。

	主な成分・薬効群	理由
1	小柴胡湯 <sup>しょうさいことう</sup>	— 代謝、排泄 <sup>せつ</sup> の低下によって、副作用が現れやすくなるため。
2	アスピリン	— 間質性肺炎の副作用が現れやすいため。
3	ピペラジンリン酸塩	— 肝臓における代謝が円滑に行われず、体内への蓄積によって副作用が現れやすくなるため。
4	ガジュツ末・真昆布末を含む製剤	— ナトリウム貯留、カリウム排泄促進が起こり、むくみ（浮腫）等の症状が現れるおそれがあるため。